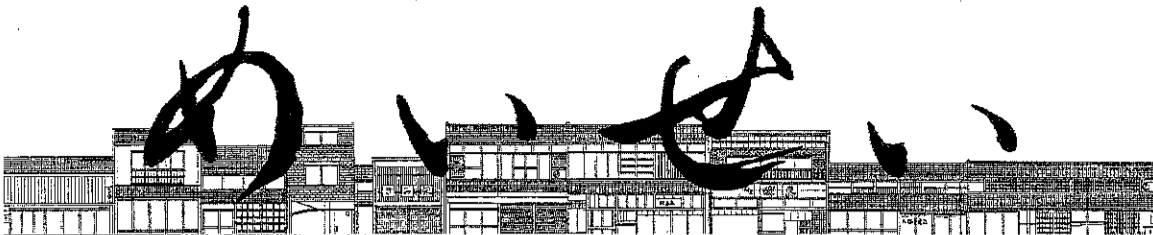


http://www.e-meisei.net

No. 63



発行 (公社)愛知建築士会名古屋西支部  
編集 広報渉外委員会  
名古屋西支店名西一丁目20番49号 クラ設計内  
TEL(052)908-0939 FAX(052)908-0836  
印刷所 株式会社 ウエルオン TEL(052)732-2227

地域貢献活動  
防災出前講座

ストローハウスを作ろう

牧野建設(株)  
一級建築士事務所  
牧野 正

東日本大震災以後、耐震について注目がなされる昨今ですが、愛知建築士会名古屋西支部の地域貢献活動の一環として「防災出前講座」を行いました。

9月2日、西支部支部長の牛田信彦氏、副支部長の岡田巖氏と共に、清須市立新川小学校へ赴き、小学5年生を対象に講座を行いました。

講座の始めにまず、「いのちを守る家の「たいしん」と題し、地震のメカニズム、必ず地震が発生する事や地震の被害についての講義をしました。さらに、地震対策の一つとして「たいしん」があり、それはいのちを守る手立てである事を説明しました。講義は一時間程でしたが、地震による建物の被害の映像なども取り入れたので、難しい内容にも興味を持ってもらえたのではないかと思います。

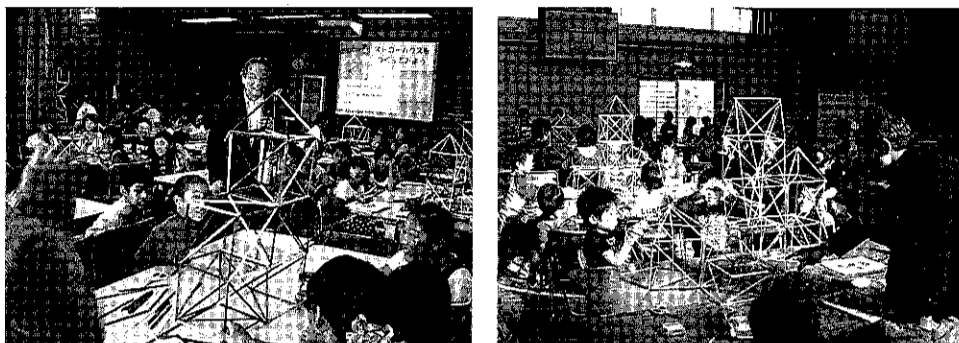
次に、「たいしん」について、より身近に考えてもらう為に「ストローハウス作り」を行いました。クリップでストローを繋ぎ合わせ、家を作ります。そして重りを吊るし、机を揺らして、その家が地震に耐えられるかを試すものです。

子供達の柔軟な発想で、長い平屋の家や、5階建ての家等、様々な家が出来上がりました。さらに、出来上がった家に重りを吊るし、机を揺らす瞬間は、子供達の歓声が響き渡り、最も盛り上がった瞬間でした。

また、10月8日は名古屋市立比良小学校にて、牛田支部長と共に、「防災出前講座」を行いました。こちらは、PTAの家庭教育セミナーでの開催だったので、小学生の子とその親御さんを対象としたものでした。講座内容はほぼ同様でしたが、参加者が違えば反応も違い、特にストローハウス作りでは、子供よりも親御さんが、熱心に試行錯誤しながら作る姿が印象的でした。このストローハウス作りから、建物には「筋交い」が重要である事を、実際に自分の手でストローハウスを作る事で学んでくれたと思います。

小学生にとって「たいしん」は少し難しい話題なのかもしれませんが、子供が興味を持ち、家庭で話題にしてくれる事は、何より影響力が大きいものです。講座終了後のアンケートでは、「家具の転倒防止策をしていきたい」、「筋交いで家が丈夫になる事を両親に伝えた」等の感想が寄せられました。

この「防災出前講座」が子供から家庭、さらには地域全体の耐震化、安全化に繋がる一因となれば嬉しいです。(左:新川小 右:比良小)



地域貢献活動

お清掃ボランティア

水野 志保



川伊藤家にて

「カワイウケって知ってる?」まだ建築士会に入る前、知人から質問されました。「知らないです。それは一般公開されているのですか?」「いや、住宅で公開はされてい

ない。建築士会に入ったら清掃活動とかで見ることが出来るかも」。最初に川伊藤家の名前を耳にした時は、恥ずかしながら何度か美濃路・四間道を通ったこともあるのに「立派な建物だな」と思うだけで調べたことがなかった私は知りませんでした。

今回清掃ボランティアとして川伊藤家の屋敷内に入らせていただきました。とても重厚な県指定文化財の建物、正面入ってたたき土間の吹き抜けは圧巻で、柱・大梁・梁・束の構成や色合いに歴史を感じました。午前中の数時間で庭の草取りや縁側の拭き掃除等という活動でした。この建物が建てられた時は多くの奉公人がいて、土間にある かまど もフル稼働、建物の隅々まで手が回る人数がいたのだらうと想像できました。

道路を挟んで本宅の向かいにある船着き場は堀川に沿っており、木材や米などが運ばれていたとのこと。当時周囲

には倉庫・材木屋・米問屋が立ち並び、船着き場から道路まで荷台に積んで運ぶため勾配にしてあるのだとの説明に納得しました。

電灯、洗面にあった石鹸受けや建具の組子のモダンなデザインに心くすぐられ、仏間の美しく描かれていた格天井に感心し、各部屋に移動させることができる脱着式の電灯は初めて見て驚きました。

川伊藤家のような住宅は江戸時代、明治時代という制度と仕組みがバランス良く機能していた時代であったので誕生し、輝いていたのだと思います。「残そうと思わない限り残らない」と建築史家 伊藤ていじさんが言われたように世の中が変わってしまった中で、飛騨高山の吉島家住宅のように川伊藤家もどこのように受け継いでいくかという問題に直面しているのではないのでしょうか。



くわい

超高強度軽量コンクリート製OAフロア  
ネットワークフロア29/40  
10年保証製品  
人と社会に快適テクノロジー  
共同カイトック株式会社  
(中部FS営業所) 〒450-0003 名古屋市中村区名駅南1-2-8 TEL(052)581-0204

国土交通省大臣認定 建築技術性能証明  
SMD杭 スーパーミニドリル  
DM工法 SMD杭工法シリーズ  
HITSコラム スラリー系機械掘削式 深層混合処理工法  
造園 外構工事・公共工事 地盤調査・地盤改良 SMD杭製造・販売 石材加工・販売  
株式会社 本陣  
〒461-0048 名古屋市中村区矢田南三丁目13番7号  
TEL: 052-722-3000 FAX: 052-722-8311  
E-mail info@honjin.co URL http://www.honjin.co

# 美濃路ウォッチング

美濃路まちづくり推進協議会 白井 鏡造

10月7日(金)午後6時30分より「みのじの館」において、平成23年度第2回ワーキンググループが開催され、以下のことについて議論されました。



みのじの館にて

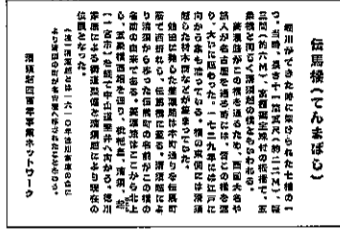
●平成12年東海豪雨災害以降、庄内川の西枇杷島に架かる3本の橋(県道枇杷島橋、JR東海道線、新幹線)の高上げ計画により、美濃路を含むこの地域が大きく改変されようとしています。私達も参加している「にしび町家地区まちづくり協議会」は、既に平成15年、16年と2度にわたり、町並み景観計画や山車会館建設などを盛り込んだ、まちづくり提言書を清須市に提出しております。今7月には地元まちづくり7団体が連名で「まちづくり要望書」を清須市長に提出しています。現在、計画は流動的でこの地域がどのように変わるのかは未知です。だからといって、手をこまねている訳には行きません。建築士の特性である「形を提案する」ことを目指し、「にしび町家地区まちづくり協議会」、「枇杷島みのじ会」と協働し、町並み形成へ地域の意見を取りまとめ、まちづくり計画案

を提案して行きます。どれだけの成果があるかわかりませんが、まずは行動あるのみです。

●四間道・那古野地区まちづくりへの積極的な取組みを図る。名古屋市の都心に残された歴史的町並みは、名古屋開府400年、清須越400年を機会にその存在感を増しています。清須越、堀川、美濃路、四間道、町家をキーワードとした歴史資産を私達支部エリアのまちづくりに活用して行きます。

●清須市内史跡説明板設置  
平成12年から私達の代表的な活動、「史跡説明板設置」もほぼ当初予定を完了し、一息ついたところですが、清須越400年事業を経て、清須の歴史の重さを知り、新たな史跡説明板設置の必要性を感じているところです。資金も限られていますので、できる範囲内で設置していきます。

●中区「伝馬橋」史跡説明板設置提案  
清須越400年事業ネットワークの新しい展開としてこれまで調査研究してきた実績を、まちづくりへ還元するため、形として残す事業の提案です。五条橋から南へ、四間道を構成する清須越商人の川伊藤家、青木家の玄関が面する美濃路は伝馬橋で東折れし、札の辻へ向かいます。清須越の橋とも言われ、橋のたもと、美濃路の曲がり角にはポケットパークがあり、そこに史跡説明板設置を名古屋市へ働きかけていきます。



伝馬橋(たまたばし)

## 平成23年度 役員オリエンテーション

副支部長 岡田 巖

役員改選に伴い、8月20日～21日に役員オリエンテーションを美浜町野間の観光旅館「かざりや」で開催しました。16名が出席し、公益法人移行と支部会計報告チェックにおける問題や、各委員会事業の議論がされた。特に魅力ある支部の活性化や会員増強についても提言がされ、有意義な意見交換会となりました。



役員オリエンテーション



旧カブトビール工場

翌21日は半田赤レンガ建物(旧カブトビール工場)の見学をしました。竣工は明治31年で、昭和19年に衣料倉庫となった赤

レンガ建物ですが、平成8年に半田市が買取り通常は安全管理上、非公開です。当日は平成14年から年に数回建物内部の一般公開がされる日です。楽しみにしていた幻の味、カブトビール(パリ万博で金賞受賞)を満喫することができました。

その後、上半田地区で交通の要所として栄えた街道の中で、染物屋があったと伝えられる紺屋海道界隈を散策しました。昔の風情が漂う懐かしい街並みが残ります。昼食は元禄時代以前に造られた半田運河横の「蔵のまち」ですませ自由解散。

半田赤レンガ建物の見学においては、半田支部・永田創一様の案内を頂きました。



旧カブトビール内

いただいた「美濃路」の活動はとて興味深く、街道脇の建物の実寸を計測するなど様々な活動やまた、美濃路街道マップを作るお手伝いをさせて頂けた事もありました。

それをきっかけとして、西支部青年部会の活動にも参加させて頂くようになり、家族親睦会などのとても楽しい活動にも参加させて頂くようになっていきました。諸先輩方が青年部を卒業していく中、ついに私のような若輩者が青年部長に抜擢され、私はそのような大役を果たせるだろうかと思いつつも、がむしゃらに役目を果たしていった事を思い出します。仕事柄土日の活動はなかなか参加できず、本会青年部の会議にもなかなか参加出来ない中、仲間がいろいろと助けて下さった事も本当に多かったと記憶しております。何とか2年の任期を果たし、後任にその役目を譲ったのですが、どういう訳かその後、再び青年部長に再登板(笑)。当時はどうしてまた!ととても悩みましたが2回目の青年部長の任期はあっという間に過ぎ去った様に感じております。

その青年部会も今は委員会となったとの事。時の流れを感じております。社団法人であった愛知建築士会も、全国に先駆けて公益社団法人化したとお聞きました。

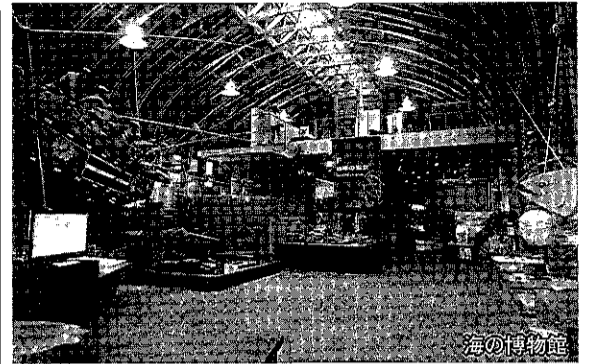
公益社団法人 愛知建築士会 また名古屋西支部のますますのご発展を心よりお祈り致します!



創立以来の会員表彰 浦野 三男氏

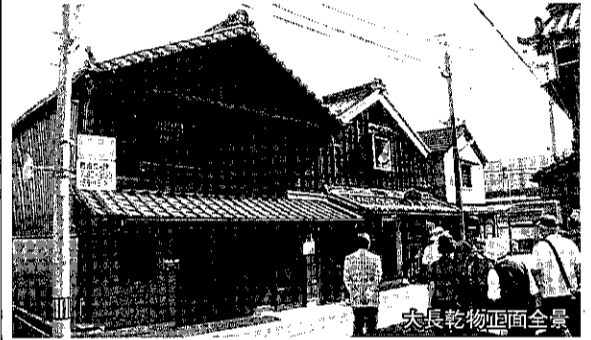
## 平成23年度 第1回研修見学会 海の博物館と伊勢河崎の町

研修委員長 牛田 清文



海の博物館

9月24日台風一過、晴れ。当日は好天に恵まれ、道路は連休中日で行きも帰りも渋滞らしい渋滞もなく、順調な道中でした。まず第1の見学地、数々の賞を受賞した海の博物館。入館し副館長さんからの説明。この館を造るにあたってまず津波に遭わないように高台に。後世に展示品を永く残す為に雨漏りしない。200年耐えられる構造を設計に求めた。展示物によりプレキャストコンクリート・木造と構造



大長乾物店正面全景

を分けたが、完成してから木造の集成材が200年耐えられるか疑問が湧いたそうです。また7棟で構成されていて雨の日の移動が大変だとか、建てる側の要望と完成後の問題点等について結構熱く語って頂きました。博物館の館外は塩害に強い焼杉板が貼ってあり私の好みでした。館内は実際に使われていた舟(最長14m)や道具、当時の漁の方法とか数多く展示してあり、予定の見学時間ではとても短かった。その後鳥羽のレトロな食堂で昼食。近くには、赤福。隣には今はない、国際秘宝館の跡が。一度入りたかった。次は第2の見学地、伊勢河崎の街。



河崎の街並み

車窓から見える鳥羽・伊勢の街は、高速道路で日帰り圏内になり民宿も減り、すくく衰退しているなと感じました。河崎の街は江戸時代に運河で発展した問屋街が建替えられず修復された街で、この土地の歴史を受け入れている人が多いのかと思いました。この街の蔵は運河に突き出る造りで、荷を直接蔵に運び込めるようになっていて、当時の荷の出入りの多さを感じました。商人館は江戸時代には珍しい応接室があり栄えていた時の羽振りの良さも感じました。

街並みは昔のままで、木造は手入れをしていけば永く使えるものと改めて思いました。またここでも見学時間が短く残念でした。また、ゆっくり見学に行こうと思いました。



海の博物館にて

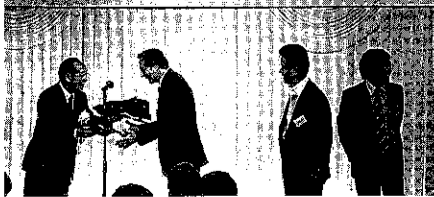
## 公益社団法人 愛知建築士会 創立60周年おめでとうございます!

(株)アトリエ創一級建築士事務所 代表取締役 宮坂 英司

過日、2011年9月18日(日)に中区役所ホールにて愛知建築士会創立60周年の記念式典が開催されました。私は当日感謝状を頂戴するという光栄に預かる事ができました。最初そのお話を頂いた時には、私のようなものが何の貢献していないのに、どうして感謝状を頂く事ができるだろうかと思ったのですが、実際当日授与して頂きますと、本当に嬉しいものでした。(笑)

私が、建築士会また、西支部と関わりを持ち始めたのは、今から14年ほど前の事になります。その頃私は現在の清須市に在住しておりました、そこで独立し設計事務所を立ち上げた直後でした。その頃、丁度西支部の事業として今も続く「美濃路まちづくり推進協議会」が始まったばかりで、そちらに参加させて頂くようになったのです。それまでの私は建築士会に入っていないものの、実際の活動に関わる事はなく、ただ毎年の会費を支払っているだけの存在でした。参加させて

### 愛知建築士会 創立60周年記念祝賀



愛知建築士会 創立60周年記念祝賀

# 私のおすすめ

## 『日記』に思いを… 辻村 美穂

私のおすすめは日記を書くことです。叔母が〔3年日記〕をプレゼントしてくれたのがきっかけで、以来20年、おもに就寝前に書いています。その日の印象に残ったこと、体調の変化や、心に残った言葉を書いています。我が家の歳時記であり、健忘録、時には家計簿の代わりにもなります。家族や友人の記念日などは日記帳が新しくなるたびに書き写しておきます。

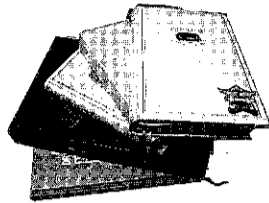
たまに昨年の今頃は何をしていたのかしら?と読み返すと、不思議と毎年同じようなことを考えて行動していたり、夕食の献立が同じだったりして

びっくりすることもあります。

感情が高ぶっているときも、その思いを文字で表現すると気分が落ち着きます。そのときは、気持ちを素直に書くことです。みなさんも、メールや手紙を書いて読み直しているうちに、気持ちが落ち着いて送らなくてもいいやなんて思うこともあると思いますが、寝る前に、気持ちをリセットすると、朝がすっきり目覚められる気がします。

このところ気に入っている日記帳は、〔5年日記〕で、B5サイズの1ページに5年分を記入するタイプです。

最近は文字を書くことも少なくなりましたが、字を書く習慣もでき、気持ちの整理もできるので、みなさんにおすすめします。



## 平成23年度 第1回 研修勉強会の報告

江口 眞樹

東日本大震災による被害が未だ収束を見せない中、9月15日(木)に名古屋西支部の第1回研修勉強会が開かれました。テーマは「液状化の発生メカニズムと対策計画と工法」でした。名古屋西支部エリアはとりわけ液状化が危ぶまれ、私にとって、今もとても関心があるテーマでしたが、他の会員も同じ思いらしくて、早々と定員に達し、参加できなかった方も多数いらっしゃったようです。

前半は中部大学の都市建設工学科山田公夫教授による「地震時における地盤の液状化の予測と実際」と題する講義で、スライドを中心に新潟地震など過去の液状化被害、液状化発生メカニズム、東日本



研修会の様子

大震災による液状化の説明がありました。液状化発生メカニズムはすぐに内容が理解できるものではありませんでしたが、それでも先生の説

明を一言も聞き逃すまいと、参加者の耳はダンボになっていました。途中、今回の震災で液状化被害が顕著だった浦安の砂のサンプルが回され、手にとって見る事が出来ましたが非常に細かい灰黒の砂でした。予想を超えた細かさだったのが印象的でした。

次にPL値、FL値による液状化の判定方法や、過去の東南海地震などから考えられる愛知県を中心とした液状化予測地図を見せていただきました。これは愛知県の発表している地図と若干の違いがあり、我が家(清須市)は多少危険度が少ないようでした。

後半は(株)本陣の今枝賢二氏による「地盤調査と簡易液状化検討法」についての講義でした。実際例を元にやさしく解説をしていただき、参加者も比較的なじみがあるので分かり易かったようです。また液状化による建物被害の法的扱い事例、液状化対策の方法についても図表などの資料により説明がありました。

今回の勉強会で、私自身は液状化対策について、もう少し現行の工法の効果や新しい工法が提案されることを期待していたのですが、いずれ研究も進むことと思います。

びっしり3時間の研修でしたが、とても充実した内容であったという間に過ぎ去った感じです。最後に会場を提供していただいたTOTOの皆様に感謝を申し上げ、私の報告といたします。

## 山歩き同好会

### 山行「田立の滝」に参加して

岐阜市立芥見東小学校5年 内田 朱音

11月3日に建築士会の人達と長野県南木曾町の「田立の滝」に行きました。

朝早く家を出て、恵那峡サービスエリアに八時に集合!! 私は初めての参加で、知らない人ばかりで不安だったけど、みんなが温かく迎えてくれたのでうれしかったです。

登山口から山を見たら、高くて大変かなと思ったけど、道が整備されていて案外楽でした。でも、つり橋を渡るときは、ゆれてドキドキしました。

山道を登っていると、急にせまい道を下り始めました。急坂ですべりやすかったので気を付けて進みました。大きな岩を曲がると、突然、水が岩に当たりながらねじれる様に落ちてくる「らせん滝」が現れました。



不動岩を望む

登山道をさらに登り、「洗心滝」、「霧ヶ滝」を通過して、「天河滝」に着きました。

「天河滝」は、高さが四十メートルもある大きな滝で、びっくりしました。滝の近くでいっぱい家族連が休けいして、登山者がごんない

もいるんだな、と思いました。滝の水で空気が冷えているので、だんだん寒くなってきました。

その後、川にそって登り続けました。川の水はすき通っていて、魚が泳いでいるのがよく見えました。

そして不動滝を通り、雲上橋をわたって不動岩展望台に着きました。展望台は高く、すこく景色が良かったです。紅葉もとてもきれいでした。

今回の山登りで、自然と仲よくできました。すこく楽しかったので、次回もまた、参加したいです。



不動岩展望台にて



田立の滝にて

## 学生コンペ ここだけの話

山本 とし



表彰者の皆さんと

2011年10月15日(土)の本番2次審査会 第6回(公社)愛知建築士会学生コンペ「熱田の柱のにぎわい」に向けて9月11日(日)午後から、地元の大学で熱心に学生を指導していらっしゃる若手の先生方による1次審査会が行われました。この日は日差しも強く9月に入っても猛暑。。。1ヶ月前の8月13日(土)の現地説明会のくらくらとした暑さがラップする中、長い長いディスカッションの末、7作品が選ばれました。今回の応募総数は56作品と少なかったのですが、応募も全国からあり、完成度の高い作品が多数登場したと思います。今年の入選地域は京都と千葉と東京が各1校づつで、残り4校が愛知県という地元がかなり頑張った結果となりました。入選した大学名の発表時、選考した先生方からも大きな歓声が上がった程です。

本番当日は、審査員の質問が学生めがけて飛ぶコンペ発表となりました。また公開審査はそれを受ける学生はもちろん、後ろで見学している学生にも今後かなりのいい刺激を与えた事と思います。結果、最優秀賞は中部大学でした。

さて、今回は審査委員長の古谷誠章氏のとっておきです。早稲田大学の教授である古谷氏ですが大学からの給料を一度も自分で買った事がないそうです。ここ30年あまり全て「かみさんのもと」に渡るそうです。では小遣いは?という雑収入で賄っているとの事。その上、家族で外食しても小遣いからご馳走しているそうです。これぞ究極の夫婦円満って事でしょうか?

もう一つはイタリア語と英語は会話が出来、韓国語・ドイツ語・フランス語・タイ語・中国語・モンゴル語は挨拶と食べ物の注文が可能という特技をお持ちです。これは、懸命に自分の思いを伝えようと思って取り組んだ結果で、同一線上に建築もあるだろうと語っておられました。代表作の茅野市民館の中庭で初めて結婚式が行われました。新婦は古谷氏の娘さんです。建築家は建物の使い道をも示したいという想いを実現させ、娘さんは「一生分の親孝行をした」と父親に語ったというエピソード。なんとも幸せな画ですね。

## 第41回 建築総合展 山田 正博



今回の建築総合展は原発問題の影響を受け中部電力の出展自粛となりましたが、新規出展企業が多く例年に劣らない内容でした。建築士デーの懇親会では、伊藤京子副会長の国交大臣表彰受賞の紹介や、各支部の地元特選品が当たる「お楽しみ抽選会」等があり、とても楽しく賑やかでした。会場内セミナー(18講座)のプレゼン映像は3月頃まで、士会ホームページにて見ることが出来ます。

# 東日本大震災発生に思う 地盤の液状化に建築士は 如何に対応するか

解説担当 馬場 富雄

## 「新潟地震の調査記録」

昭和39年6月16日13時1分40秒、新潟大地震が発生した。翌日の新聞を見て、ビックリ!なんと4階建のRCアパートが傾いたり引っくり返っているではないか(写真1参照)。記事を読むと地盤が液状化したとある。地盤の液状化などということは、学生時代には習わなかった。そこで、早速現地調査に行くことになり、大学、愛知県、名古屋市、中部電力のメンバーで調査班を結成し、現地へ出かけた。夕方新潟駅に着いた時、駅前広場には給水車が並び、市民の長い列でござったがえしていた。

翌日アパートの傾いた現地へ行き、その状況についてヒアリングを開始。被災した人々によると、地震の直後地面のあちこちから水が噴き出し、豪雨の後のように地表面が水びたしになったという。そしてその後静かに静かに建物が傾き始めたそうである。この時に建物の中に居た人は危険を感じて外へ避難してしまい、傾きが進行して家具等が転倒する頃には建物の中にはもう誰もいなかった。これだけの被害にもかかわらず人身事故はゼロとのことであった。次のヒアリングは傾き始めてから傾きの進行が止まるまでの時間であるが、傾きが止まるということは地盤の液状化が修復され、元の地盤支持力が復活したことである。その所要時間は液状化の状態がどのくらい続いていたかということである。まさか時計で計測していた人はいないと思い、数人の人々に聞いて得心証は40分くらいであった。余談であるが、現地を見物に来る一般人がけっこういて、中には傾いたビルをバックに記念撮影している人々もいた。被災者にとってはそんな場面はたまらないものだったと思う。

次に、街中を歩いて調査していると、大きなコンクリートBOXが地上に置いてあるように見える現場に遭遇した。それは地盤の液状化で浄化槽が浮き上がったものだった(図1参照)。まさにその浮力のものすごさに驚かされた。そこで、この浮いた浄化槽を「空気箱」と命名して今後説明する。図2は地盤が液状化するにつれ地盤支持力が小さくなっていくが、逆に空気箱の浮力は増大していく関係を示したものである。

さて、今度の東日本大震災では東京、千葉の一部に

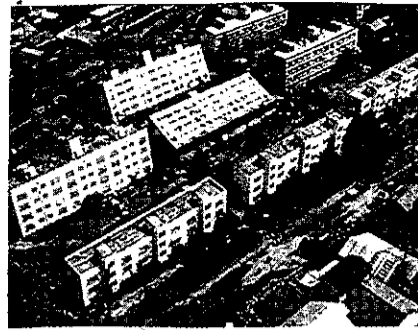
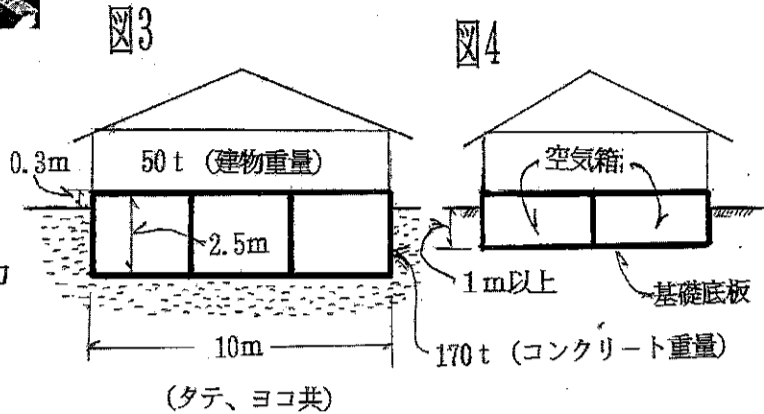
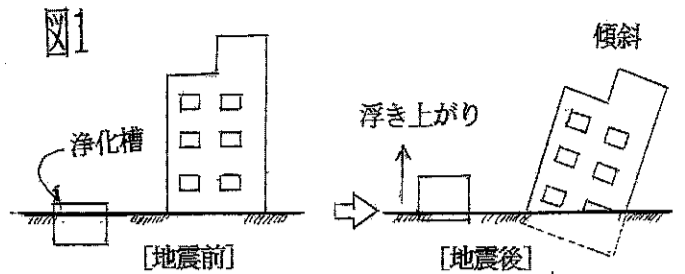
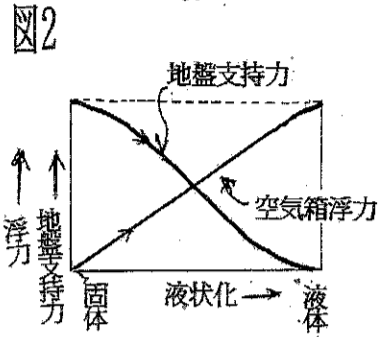


写真1



までも及ぶ広大な部分に地盤の液状化が起こり、建物の不同沈下の被害は戦後最大ものとなった。最近のNHKの調査では住宅購入時の第一の条件として、そこは「地盤の液状化は起きないか」ということだそうである。当名古屋地方でも昭和19年の大震災でかなり液状化の被害があったらしいが、当時は戦時中で軍部が被害を極秘にしたため、データは残っていない。しかし今後宅地を求める時に建築主は「ここは地盤の液状化は起きないか、設計上の対策はあるか」等の問いを建築士に求めるパターンが増えると思う。その場合、液状化部分より更に深い所まで長さ15m以上の杭打ちをすれば大丈夫という説明はできるが、住宅密集地の狭い宅地では施工方法と工事費の点からとても無理である。

「どうしようもありませんね」と答えるのも少々情けないし、地盤改良とか整地の周りに連続壁を打ち込むとかの説明をしても、それで建物の被害が起きないとは言いがたし、建築士としては苦しい説明になる。

では、もっと安価でよい方法はないか?そこで一試案であるが、先ほどの空気箱の浮力を応用してその箱の上に建物を載せれば建物の重量に対してかなりの浮力が建物の沈下を打ち消すのに働き、沈下の被害をかなり軽減できるのではなかろうか。

ここで、どんな空気箱基礎が適切かを考える。まず地盤が完全な液体になったとして、どんな空気箱が必要か?計算上は図3のような空気箱であれば、家を載せても沈

まない。しかし実際は地盤が固体と液体の中間の状態になっているのであるから、図3のような大きな空気箱を作る必要はない。常識的には、図4のような地中深さ1m以上の空気箱基礎を設計すればその浮力がかなりの沈下防止になるであろう。この方法にしても先ほどの話と同様、これで大丈夫というデータはなく、「建物は沈下しません」とは言い切れないが少なくとも災害を減らすことを説明し、防災ではなく減災を目的としている旨を建築主に理解してもらわなければならない。

さて、空気箱基礎の設計細部についてであるが、底板は厚さ20cm以上、16φのダブル配筋くらいが望ましい。なお新潟市内でみた、傾いた建物の殆どがペントハウスのある方へ傾いていた(図1参照)。住宅設計では平屋の一部だけを2階にするのは不同沈下の原因となり、極力避けるべきであると思う。(めいせい36号で解説)

### 【問題】地盤の液状化現象が起きる原因は次のうち、どれか。

- A 地盤の種類と豪雨
- B 地下水位と地盤の種類と豪雨
- C 地盤の種類と地震
- D 地下水位と地盤の種類と地震

## 春夏秋冬

今年の11月は例年より暖かく、紅葉の足音が未だ聞こえてきません。趣味で写真を撮って居ますので紅葉は楽しみな被写体です。カメラを通すと普段見慣れた景色も又違って見えます。レンズを変えれば又見える景色は大きく変わります。勿論写った絵は見慣れたそれとは違います。少し見方を変えるだけで変わる物は何も目で見える物だけではありません。ニュースや仕事、知人についても心の視野を変えるだけで違う物が見えると感じます。物事を別の角度、別の視野から見れば共感できることもあります。

少し色が変われば今まで感じなかった見え方が出来たりする事もあります。穏やかだった深緑の木々が情熱的な赤へ変化すると景色が変わると同じかもしれません。綺麗な秋空の下、少し視点を変えて散歩してみても如何でしょうか。何か再発見があるかもしれません。

相澤 勉

## 編集後記

今回は西支部の地域貢献活動の報告です。全体的に写真を大きくし見やすく判り易くしましたが、いかがでしょうか。皆様の感想をお待ちしております。また、支部活動の様子はホームページでも見ることができます。よろしければ覗いてください。

広報渉外委員長 森 登

**住宅リフォーム・リニューアル工事、耐震補強工事**  
集合住宅・ビル・マンション・一般住宅・倉庫・工場・営業店舗

豊かな環境を創造する  
テレビ愛知毎週土曜PM6:30  
「ホトチャンネル」CM提供中

**株式会社 ムラテ** URL <http://www.murate.com/>  
〒453-0861 名古屋市中村区岩塚本通1-51 TEL052-411-8111 FAX052-413-1036  
津島(営) TEL 0567-31-0780 名岐(営) TEL052-400-1291

平成22年度 **1級建築士 設計製図試験**

愛知県 **合格者占有率 No.1 63.9%**

11年連続で愛知県の合格者の半数以上が当学院受講生でした!

平成22年度 合格者占有率

平成22年度 1級建築士設計製図試験 愛知県合格者252名中、当学院受講生合格者161名  
※都道府県合格者は、(改)建築技術教育普及センター一発の受験番号より算出。  
※総合資格学院の各合格者には、模範解答のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供生、過去受験生は一切含まれておりません。

「わかるまで」「独力で解けるまで」指導。 **法定講習** (株式会社 総合資格学院 法定講習センター 実施)  
建築士法に基づく **管理建築士講習**  
建築士法に基づく **一級/二級建築士定期講習**

**総合資格学院** すべては「合格」のために

名古屋校 TEL052-202-1751 岐阜校 TEL058-277-3701  
小牧校 TEL0568-42-1211 津 校 TEL059-238-0711  
岡崎校 TEL0564-57-8161 四日市校 TEL059-359-0711  
豊橋校 TEL0532-57-0311 [www.shikaku.co.jp](http://www.shikaku.co.jp) 株式会社 総合資格学院

Total Media Support

**WELL ON** 株式会社 ウェルオン

〒460-0007 名古屋市中区新栄三丁目21番31号  
TEL 052-732-2227 FAX 052-733-3178  
URL <http://www.well-on.co.jp/>

16190101(03)  
35200012006年製